

## 1 長寿社会を豊かに生きる生涯学習

---

「長寿社会」において、県民一人一人が生涯にわたって豊かに生きるためには、健康で心に潤いやゆとりがあることが大切です。そのため、若い頃から健康な生活習慣を身につけるとともに、身近なところでスポーツ・レクリエーションに親しめる取組を推進します。また、心の豊かさの糧となる芸術・文化について、県芸術文化センターなどの文化施設や東三河の民俗芸能など本県の豊富な芸術文化資源を活用して、県民が芸術・文化に親しむ機会を提供するとともに、子どもたちの感受性を喚起する読書活動の充実に努めます。

併せて、児童生徒が「生きる力」の基礎となる確かな学力を身に付けられるように学校教育の充実に努めます。

超高齢社会を迎えた今、高齢者は地域づくりの重要な人材です。趣味・教養に時間を費やすだけでなく、これまでの経験を社会参加・地域貢献に生かしてもらえよう、地域活動の拠点である公民館の活性化支援や地域のリーダーとして自発的に活動できる支援など高齢期の学びと社会参加を促進していきます。

### (1) 健康づくり・スポーツ活動の促進

#### 【現状と課題】

- 健康であることは全ての人の願いであり、県民一人一人が幸せを実現するための最も重要な条件のひとつであることから、県民の健康づくりに対する関心は益々高まる状況にあります。健康を維持しながら長生きすることは、生活の質につながる重要な課題であり、自立して生活できる期間である「健康寿命」は、平成22年度において、男性が71.74年で全国1位、女性は74.93年で全国3位となっており、豊かな第二、第三の人生を実現していくことが望まれます。
- そのためには、若い頃から栄養摂取の重要性を理解し、高齢期に向けた健康管理、健康づくりに取り組むとともに、誰もが年齢や体力、興味・目的などに応じて、いつでも、どこでも、安全にスポーツに親しむことができるようにすることが不可欠となっています。

## 【施策の展開】

### ○ 健康長寿あいちづくりの推進

「あいち健康プラザ」を中心に、健康づくりの動機づけから実践までの支援、指導者の育成、研究開発などを推進し、健康づくりのセンター・オブ・センターとしての機能を強化します。また、大府市及び東浦町にまたがる「あいち健康の森」とその周辺地区において健康長寿に関する産業の育成・創出等を推進する「ウェルネスバレー構想」と連携し、健康長寿の交流拠点づくりや情報発信等に取り組みます。

### ○ 健康的な生活習慣の確立

がん、循環器疾患、糖尿病などの生活習慣病に対処するため、県民一人一人が若い頃からより良い生活習慣を継続し、病気の発症予防に努めるとともに、適切な健康管理により疾病の早期発見に取り組む必要があります。そのため、市町村や関係団体との連携を強化し、栄養や運動、休養といった生活習慣改善のための情報提供、サービス、環境整備を充実させるとともに、キャンペーン等の啓発活動により特定健康診査等の健診受診率向上に努めます。

### ○ 食を通じた健康づくりの推進

食を通じた健康づくりのため、地域の健康づくりやバランスのとれた食生活を推進する食生活改善推進員<sup>1</sup>を対象に、最新の知識・技術を習得させるための研修を行い、食生活改善推進員の活動を促進し、食生活や栄養の指導・啓発などの食育活動を支援します。また、外食等の機会やコンビニ利用が増加していることから、栄養バランスの取れた食生活ができるよう栄養成分の表示や「ヘルシーメニュー」の提供を推進します。

### ○ 生きがいと健康づくり事業の実施

愛知県社会福祉協議会福祉生きがいセンターにおいて「高齢者の生きがいと健康づくり推進事業」を実施し、生き生き長寿フェアの開催など高齢者の生きがい・健康づくり・世代間交流を推進します。

#### 生き生き長寿フェア

マラソン・ウォークラリー大会、高齢者向けニュースポーツ体験などの健康イベントを実施しています。

全国健康福祉祭（ねんりんピック）へ愛知県選手団を派遣しています。

高齢者等が活動するサークル情報を提供しています。

<sup>1</sup> 食生活改善推進員：市町村が実施する養成講座を修了し、食生活面からの健康づくりやボランティア活動を展開している者

## ○ 地域スポーツ活動の推進

誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツ・レクリエーション活動に親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するため、総合型地域スポーツクラブ<sup>1</sup>の創設・育成活動を進め、地域の絆づくりに寄与します。また、地域におけるスポーツ・レクリエーションの指導者やコーディネーターの育成に努めます。さらに、地域での活発な活動が展開されるよう、市町村や学校、関係機関と連携のあり方について協議していきます。

## ○ スポーツ活動成果の発揮、交流の場の提供

「愛知スポーツ・レクリエーションフェスティバル」や「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」の開催などにより、様々な年齢層の人々が気軽に参加し、日頃の活動の成果を発揮しながら、県民相互の交流ができる機会を提供します。

### 愛知スポーツ・レクリエーションフェスティバル

県民のスポーツに対する意識をより一層高揚させ、生涯にわたって県民の生活の中にスポーツ・レクリエーション活動を取り入れ、豊かで明るい県民生活に寄与することを目的に平成7年度から実施しています（23年度参加者：県大会 5,915人、地区大会 12,046人）。

### マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知

「名古屋国際女子マラソン」を1万人以上の規模の女性だけのフルマラソンに拡大した「名古屋ウィメンズマラソン」と「名古屋シティマラソン」を併せて平成23年度から実施しています（23年度参加者：名古屋ウィメンズマラソン 13,114人、名古屋シティマラソン 16,002人）。

## ○ 教員の指導力向上

教員対象の講習会を開催し、資質の向上に努めます。そして、児童生徒が運動を好きになるような魅力ある授業づくりに取り組み、体力の向上や生活習慣の確立を図りながら、生涯スポーツの基礎を培います。

## ○ 勤労者福祉の増進

労働時間短縮「ゆとり創造月間<sup>2</sup>」の11月に勤労者スポーツ大会を開催し、勤労者の健康増進と相互交流を進めます。

<sup>1</sup> 総合型地域スポーツクラブ：複数の種目が用意され、子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルの競技者まで、地域の誰もが年齢、興味・関心、技術・技能レベルに応じて活動できるクラブ。地域住民が主体的に運営している。

<sup>2</sup> ゆとり創造月間：厚生労働省が平成元年より始めたもので、「勤労感謝の日」や「文化の日」がある11月に、労働時間短縮や長期休暇取得制度の普及と定着に向けた取組を全国で進めている。

## (2) 芸術・文化の振興

### 【現状と課題】

- 本県は世界に誇りうる複合的文化芸術施設である愛知芸術文化センターをはじめ、様々な文化芸術資源を有しており、こうした豊富な資源を活用した取組により文化芸術面において、世界に向けた創造力、発信力を一層強化していくことが求められています。
- 文化芸術は人々が心豊かな生活を送るために不可欠であるとともに、個々の人づくりからコミュニティづくり、ひいては、地域づくりにも極めて大きな役割を果たしています。しかしながら、文化芸術を支える文化活動団体の活動資金は恒常的に不足している状態で、団体の活性化を図りながら、地域における文化芸術活動を支援していく必要があります。また、伝統文化の後継者養成も喫緊の課題となっています。
- 歴史上、芸術上、学術上価値の高い文化財をよりよい形で後世に伝えていくために、近年では保存だけでなく、その活用に重点が置かれています。そのためには、地域住民や子どもたちが郷土の歴史や自然、文化を理解し、文化財を守り、未来に伝えていくための環境や仕組みが必要となっています。
- 自然災害や火事などにより、県内各地に残る多くの貴重な資料が失われつつあります。また時代の変遷とともに自然の景観や風習が変化しています。こうした現状から残された貴重な資料を県民共通の財産として、後世に残していくことが課題となっています。
- インターネットやテレビなど情報メディアが多様化する中で、「活字離れ」、「読書離れ」が進行しています。第58回学校読書調査（平成24年度：全国学校図書協会）によると、5月1ヶ月の読書冊数は、小学生が10.5冊、中学生が4.2冊、高校生が1.6冊であり、5月1ヶ月の不読者率（1冊も読書をしなかった子どもの割合）は、小学生が5%、中学生が16%、高校生が53%となっています。  
このような現状から、地域や学校における読書環境の整備とともに、読書に関する啓発活動が求められています。

### 【施策の展開】

#### ○ 国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」の開催

愛知から文化芸術を世界へ発信するため、常に新たな視点で、先端的な芸術と社会や時代との関わり方などを提示する国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」を、県民、NPO、企業、文化団体、芸術大学、市町村等と幅広い連携・協働を図りなが

ら実施し、県民が芸術に親しむ機会を提供します。

また、学びを生かしたガイドツアーなど、ボランティアの養成にも努めます。

あいちトリエンナーレ 2013

会 期：平成 25 年 8 月 10 日（土）から 10 月 27 日（日）まで

会 場：愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか、岡崎市内のまちなか

主 催：あいちトリエンナーレ実行委員会

## ○ 芸術文化に触れる機会の提供

地域で活動する芸術文化団体と子どもたちとが連携して行うワークショップなどを市町村とともに支援し、子どもたちが直接、芸術文化に触れる機会を提供するとともに、愛知県立芸術大学での芸術文化事業、リニモ沿線のイベントへの参加などを通じて、県民の幅広い年齢層に対して、芸術文化に触れる機会を提供します。

## ○ 文化団体の行う公演事業への支援

広く一般の県民が参加でき、事業の執行に当たって県からの補助が必要である事業について、助成を行い、文化団体の学びを生かす活動を行うための地域における活動の場づくりを推進します。

## ○ 伝統芸能の保存・伝承への支援

東三河の花祭など本県に古くから伝承し、本県文化の特色となっている指定文化財等を保存・伝承するために行う研修等に対して助成を行い、伝統文化の継承に努めます。また、将来の後継者候補である小中学生を対象に、郷土の伝統芸能を直接に体験・練習し、その成果を発表する機会を設けて、伝統文化等にかかる学習を進めます。

花祭

「テホヘ テホヘ」と夜を徹して行われる花祭は、北設楽郡 3 町村において 700 年以上前から伝承されている伝統行事で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

## ○ 県史の刊行

本県に関わる膨大な資料の調査及び収集を行い、平成 31 年度までに「愛知県史（全 58 巻）」の編さんを計画的に進めます。県史の刊行により、県民がふるさと愛知に対する関心を高め、学習を行い、理解を深めることに寄与するとともに、編さん過程において収集した資料を整理し、公開することにより、県民がふるさと愛知について調べ、学ぶ機会を提供します。

## ○ 歴史や文化に触れる機会の提供

国指定・県指定・国登録文化財の件数を増やすとともに、指定文化財を活用した体験講座（保護体験講座、伝統文化出張講座等）を実施し、歴史や文化に触れる機

会を提供することにより、文化財に対する理解を深め、保護意識の高揚を図ります。

#### ○ 「子ども読書活動推進計画」の策定

全ての児童生徒にとって、ふさわしい読書習慣を身に付けることができるようにするため、現行計画の取組や成果、さらには課題を検証し、本県における子ども読書活動に関する施策を総合的に推進するための指針として「愛知県子ども読書活動推進計画（第三次）」を策定するとともに、県内の全市町村において「子ども読書活動推進計画」の策定を促します。

#### ○ 子ども読書活動の充実

朝の読書タイム、読書集会、読書週間<sup>1</sup>等における読書活動を通して、創造的な知的好奇心、感受性などを喚起し、児童生徒が進んで本に親しむことができるようにします。また、本県ゆかりの著名人等が心に残った本を紹介した「みんなにすすめた一冊の本」を各学校に配布し、その活用を図るとともに、本県ゆかりの作家及び作品をテーマにした各種行事を開催し、県民の読書に関する興味・関心を喚起します。

#### ○ 読書ボランティアの養成・支援

地域における読書活動を支える人材を養成するため、読書ボランティア養成講座などを開催するとともに、ボランティアのネットワーク化を進め、地域住民による読書活動を支援します。

#### ○ 地域と連携した読書活動の推進

学校図書館の地域への開放を促すとともに、学校における地域住民による読書ボランティアの受け入れを積極的に行い、学校と地域とが連携した読書活動の推進を図ります。

また、ボランティアによる公民館での読み聞かせ会などにより、公民館を拠点として、県民が読書活動に触れる機会を促します。

---

<sup>1</sup> 読書週間：10月27日から11月9日の期間で、良書の普及、読書の奨励を目的として読書を推進する様々な行事が行われている。

### (3) 学校教育の充実

#### 【現状と課題】

- 学校教育は、幼児・児童・生徒が生涯にわたり、人として必要な生きる力を養う基盤となる力を養うとともに、国家及び社会の有為な形成者としての資質の育成を目標としています。
- 幼児児童生徒が、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力という知・徳・体のバランスのとれた力「生きる力」を身に付けることが重要です。
- 本県では、平成19年4月に、『自らを高めること』と『社会に役立つこと』を基本的視点とした『あいちの人間像』の実現」を基本理念とする、教育の総合的な計画「あいちの教育に関するアクションプラン」を策定し、様々な施策を実施するなど理念の実現に向けて取り組んできました。
- その後、いじめ・不登校への対応や子どもたちの社会的自立に向けた取組の充実などの教育を取り巻く課題、グローバル化や経済状況など変化する社会の動向を見極め、さらに愛知の教育を推進していくため、平成23年6月に、先のプランの基本理念を継承した「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」を策定しました。
- この「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」に基づき、学校教育の充実に向けた施策が着実に展開されていくことが求められています。
- とりわけ「生きる力」の基となる確かな学力を身に付けるためには、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を修得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をバランスよくはぐくむことが求められています。

#### 【施策の展開】

##### ○ 道徳性・社会性の向上

モラル・マナー向上へのキャンペーン活動、道徳教育の充実、集団活動や交流活動の推進、情報モラル<sup>1</sup>の向上、いじめ・不登校への相談体制の充実及び幼稚園による子育て支援の充実などの施策により、子どもたちの道徳性・社会性の向上を図っていきます。

<sup>1</sup> 情報モラル：情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度

## ○ 発達段階に応じたキャリア教育の充実

「キャリア教育ノート<sup>1</sup>」の作成・活用、小学校におけるキャリア教育<sup>2</sup>の推進、中学校における職場体験活動の充実、高等学校におけるインターンシップ等の実施及び特別支援学校におけるキャリア教育の推進などの施策により、子どもたちの発達段階に応じた勤労観・職業観を育むキャリア教育の一層の充実に努めます。

## ○ 「生きる力」の基礎となる確かな学力の育成

きめ細かな指導の充実、学ぶ楽しさを味わわせる取組の充実、生徒や地域の多様なニーズに対応するための県立学校づくり、高等学校と大学や企業との連携による学習意欲の向上、理数教育の推進、知的好奇心や表現力を高める読書活動の推進及び特別支援学校の過大化解消などの施策により、学習意欲の向上を図り、「生きる力」の基となる確かな学力を育成します。具体的に次のような取組を進めます。

- ・ 「異世代交流」や「創意工夫」をキーワードとして、子どもたちが地域の人々と積極的に関わり合いを持ちながら豊かな心を育んだり、学校や幼稚園が地域に根ざした特色ある学校づくりに取り組んだりすることができるように、学校（園）が核となって、地域との絆づくりに取り組みます。
- ・ 学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指した教育課程の工夫、新たな高大連携のあり方に関する取組など、生徒の実態や学校の課題に対応した魅力ある教育課程の実施や授業改善への取組を支援します。
- ・ 県内の大学が行う高校生向けの公開講座の情報等を集約して掲載する「あいちの学校連携ネット」の掲載内容を充実していくとともに、大学との共催により高校生を対象に大学教員が自らの専門分野をわかりやすく講義する「あいちの大学『学び』フォーラム」を開催します。

### 高校生のための「あいちの大学『学び』フォーラム」

県内すべての国公立の高校及び特別支援学校高等部の生徒を対象に、大学教員が自らの専門分野をわかりやすく講義し、その分野に関心のある生徒に大学の「学び」に触れる機会を提供して、その後の生徒自身による進路選択の一助としていきます。

- ・ 市町村教育委員会が行う大学生のボランティア募集情報を「あいちの学校連携ネット」に掲載して大学向けに情報発信していくなど、大学生による学校現場における学習支援を推進していきます。

<sup>1</sup> キャリア教育ノート：本県が平成23年度に作成した小・中学校から高等学校まで、また特別支援学校を含めて、系統的・継続的に、それぞれの児童生徒の発達段階に応じて、社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度を育成する手助けとなるノート

<sup>2</sup> キャリア教育：子どもたちが、社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育

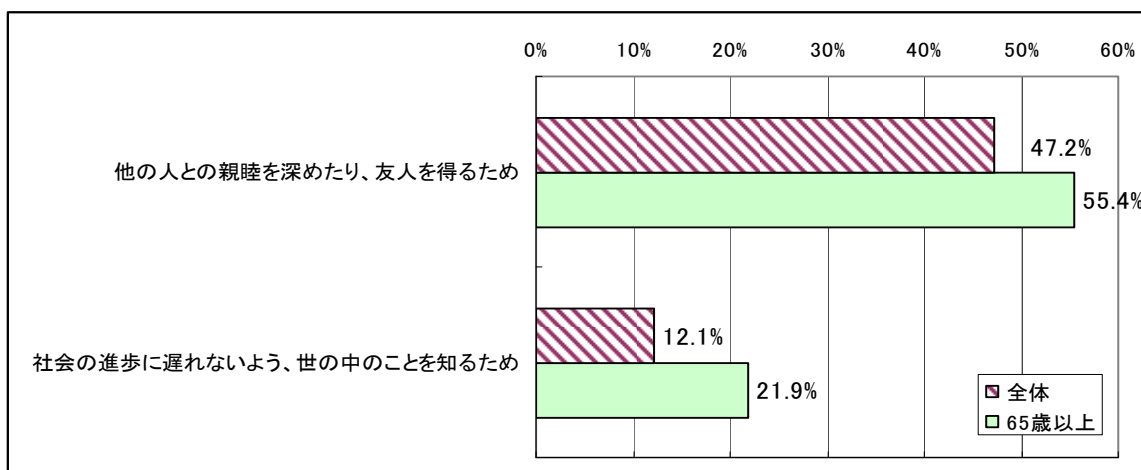


#### (4) 高齢期の学びと社会参加活動の促進

##### 【現状と課題】

- 本県が行った生涯学習に関する県政世論調査の結果によれば、65歳以上の高齢者で、この1年間に何らかの生涯学習を行った者は65.1%を占めています。
- 高齢者が生涯学習を行う目的・必要性については、「興味があり、趣味を広げ豊かにするため」が最も多くなっていますが、他の世代に比べ「他の人との親睦を深めたり、友人を得るため」や「社会の進歩に遅れないよう、世の中のことを知るため」が多いことが特徴づけられます。

##### 生涯学習を行う目的・必要性（愛知県）



資料：愛知県「県政世論調査」（平成24年）より作成

- また、個人や地域が抱える課題が多様化、複雑化する中で、自らの課題は自らで、地域社会の課題は、他者と協力をして解決を図ることができる地域住民の育成に資する学習機会の提供が求められています。
- 現在の高齢者は、以前のいわゆるお年寄りとは違い、介護保険制度における支援や介護を必要としない高齢者が増え、65歳以上では全体の約8割を占めています。
- 「あなたは『生涯学習』によって学んだ知識をどのような活動に生かしていますか」という問いに対して、65歳以上では、「生かしたいと思っているが生かしていない」との回答が23.4%となっており、学習の成果を生かした活動をしていない理由を聞くと、「まだ活用できるレベルに達していない」とする回答が64.6%を占めるという結果になっています。自分の経験の延長線上で、じっくりと自分らしい学びと社会参加のステージを模索し、創りあげていく支援が求められます。

## 【施策の展開】

### ○ あいちシルバーカレッジの開催

60歳以上の県民に学習の機会を提供し、生きがいを持って積極的に社会参加できるような環境を整えるため、「あいちシルバーカレッジ」を県内4か所で開講し、主体的な学びを支援していきます。

#### 「あいちシルバーカレッジ」

県内に在住の満60歳以上の県民を対象に、生きがいと健康づくりを図るとともに、地域における社会活動の中核となる人材を養成することを目的として開講しています。

修学期限：1年(年30日間)

会場：4か所(名古屋A・B、豊橋、岡崎、一宮)

学習内容：文化学科・健康福祉学科(岡崎、一宮は文化学科のみ)

### ○ あいちシルバーカレッジ修了者に対する支援

「あいちシルバーカレッジ」の修了者に対して、高齢者が活動する地域のサークル情報の収集や情報提供を行うことにより、地域活動の担い手として活躍できるよう支援を行っていきます。

### ○ 公民館活動の活性化支援

高齢者が学習活動や地域活動を通して生きがいを創出し、退職後に豊かな第二、第三の人生を実現するためには、住民の学習を保障する拠点、地域づくり・人づくりの拠点として、身近な社会教育施設である公民館の役割が極めて重要となっています。

そこで、地域住民が心と心で触れあい、学びあい、支え合えるための公民館の管理運営の見直し、職員の資質向上、活動内容の改善を通じて、今日的な課題に応じる公民館のあり方を追求し、活力ある地域づくりを推進するため、市町村の公民館の連合体である愛知県公民館連合会を通して公民館活動を支援していきます。

### ○ 老人クラブ活動の推進

人々の仕事と生活のスタイルが都市化していく中で、「高齢者が学ぶ」ことは「生きがい」の問題としてクローズアップされたことにより、自らの老後を健全で豊かなものとするために自主的な組織として「老人クラブ」が全国的に組織され、本県においては、平成23年3月末現在、クラブ数6,247、会員数466,780人となっており、ともに全国1位となっています。

ただし、60歳以上の加入率は年々減少してきており、魅力ある「老人クラブ」とする取組が必要となっています。

そこで、「愛知県老人クラブ連合会」では、「愛知いきいきクラブ」を愛称として積極的に使用することなど「老人クラブ」のイメージアップと加入促進を図ってい

ます。「老人クラブ」では、健康づくり、趣味、レクリエーションなど「生活を豊かにする学習活動」や友愛活動、社会奉仕、文化の伝承活動など「地域を豊かにする社会貢献活動」を行っており、これらの活動をさらに推進するため、「老人クラブ」活動を支援し、その活性化を促します。

○ 「まちの達人」の地域活動に対する支援

高齢者の地域活動のリーダーとして平成18年度から20年度までの3年間で養成をした「まちの達人」が、それぞれの技能や得意分野を地域で生かす自主的な活動ができるように支援していきます。この事業を通して、高齢者が長年培ってきた技能や得意分野などを地域で生かす自発的な仕組みを普及させていきます。

「まちの達人」

長年培ってきた技能や得意分野を地域に還元したいという意欲のある高齢者で、「まちの達人養成講座」を修了した者をはじめ、当事業に賛同した者です。

現在200人を超える修了生等が愛知県内7地区に分かれ、地域の活動を充実させるためのネットワークを作っています。